

連結業績ハイライト

2011年4月1日～2011年9月30日

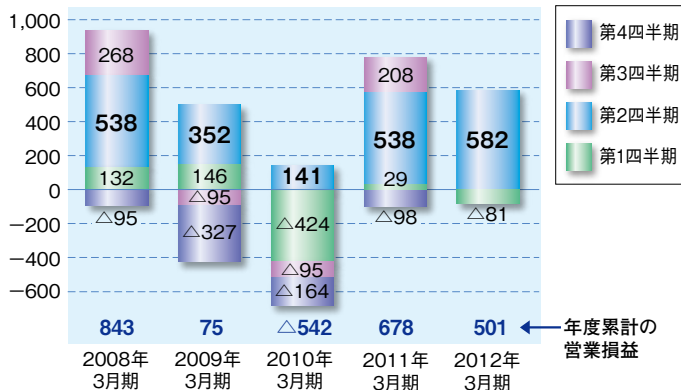
※金額は表示単位未満の端数を切り捨てています。

需要の回復基調に合わせ、積極的な需要喚起策を展開

- 震災後大きく落ち込んだ航空旅客需要は夏以降回復基調が鮮明となり、需要喚起に向けた施策の効果もあって、当第2四半期(6カ月間累計)は前年同期に比べ増収となりました。
- 一方で期初に計画したコスト面での緊急対策を予定通り遂行し、営業利益501億円、経常利益375億円、四半期純利益228億円となりました。

四半期ごとの営業損益の推移

(単位 億円)



経営成績

(単位 億円)

	前第2四半期累計	当第2四半期累計	増減	前年同期比増減率(%)
営業収入	6,841	7,048	206	3.0
営業費用	6,273	6,547	273	4.4
営業利益	568	501	△ 66	△ 11.8
営業外損益	△ 113	△ 125	△ 12	—
経常利益	455	375	△ 79	△ 17.4
特別損益	△ 141	6	148	—
四半期純利益	132	228	95	72.1
EBITDA*	1,144	1,085	△ 58	△ 5.1

※EBITDA=営業利益+減価償却費

2012年3月期の連結業績見通し

(単位 億円)

	前回発表予想	今回修正予想	増減
営業収入	14,100	14,000	△ 100
営業利益	700	700	—
経常利益	360	360	—
当期純利益	200	200	—

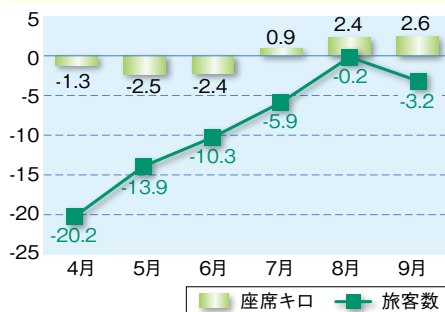
営業収入は国内外の景気後退懸念等により前回発表(7月29日)時点よりも100億円程度減収になると見込んでいます。引き続きコスト削減を進め、減収見込額と同額の営業費用を削減する予定です。その結果、通期の営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも前回発表時点と変更はありません。配当金は1株当たり2円を予定しています。

国内線旅客数・国際線旅客キロ・国際線貨物トンキロの推移(前年同月比増減率)

(単位 %)

国内線旅客数

ビジネス需要は6月までにほぼ回復。プレジャー需要も7月以降、需要喚起策の効果もあって、ようやく回復基調に。



国際線旅客キロ

ビジネス需要が先導し、需要は6月までにほぼ震災前の水準に。プレジャー需要も日本発は7月以降堅調に推移。訪日需要の回復は遅れている。



国際線貨物トンキロ

震災による需要減は予想より早く回復したが、夏以降日本発の需要が減退傾向に。

